

原子力発電技術フォーラム訪中団 - 実施レポート -

2011年6月26日(日)～7月2日(土)の7日間、一般社団法人日本技術者連盟 国際原子力発電技術移転機構の企画主催により「原子力発電技術フォーラム訪中団」(以下、訪中フォーラム)を派遣しました。

■訪中フォーラムの概要

1. テーマ : 「原子力発電技術フォーラム訪中団」
2. 期間 : 平成23年6月26日(日)～7月2日(土) 7日間
3. 企画主催 : 一般社団法人日本技術者連盟 国際原子力発電技術移転機構
4. 後援 : 社団法人日本原子力産業協会
特定非営利活動法人日本保全学会
5. 団長 : 榎本 聡明 氏 東京電力株式会社 前副社長 工学博士
社団法人海外電力調査会 前会長
コーディネーター : 佐々木 宜彦 氏 国際原子力発電技術移転機構 委員長
財団法人発電設備技術検査協会 理事長
副団長 : 石塚 昶雄 氏 社団法人日本原子力産業協会 常務理事
6. 協力 : 日本テピア株式会社 日中経済・技術交流センター
7. 総合事務局 : 株式会社アジア技術移転機構
8. 参加人数 : 23名
9. 参加企業・団体名 ※順不同
(独)日本原子力研究開発機構 中国電力(株) (財)電力中央研究所 (株)原子力安全システム研究所 三菱電機(株) (株)IHI (株)荏原製作所 岡野バルブ製造(株)
伊藤忠商事(株) 上海伊藤忠商事有限公司 国際協力銀行 アネックスリサーチ(株)
(社)日本電気協会新聞部 日本テピア(株) (社)日本技術者連盟

■訪中フォーラムの目的

中国では積極的に原子力発電開発を進めていますが、人材の不足や原子力発電設備の製造能力、据付能力、研究開発・設計能力の不足を指摘する声があがってきています。

福島第一原子力発電所事故については、世界各国、とりわけ中国が多大な関心を寄せています。一般社団法人日本技術者連盟 国際原子力発電技術移転機構としては民間の立場からも正確な情報を中国側に伝え、経験を共有する必要があると考え、2011年6月27日(月)～28日(火)北京において中国核能行業協会との共催により「中日原子力発電技術フォーラム」を開催、福島第一原子力発電所事故の状況ならびに日本の最新の技術・知見について紹介するだけでなく中国の現状や課題について発表頂き日中間の交流を深めました。

原子力安全の確保に貢献することはもちろん、中国市場進出への足がかりになるものと期待します。また、フォーラム2日目の午後には、中国マスメディアとの記者会見も行いました。

■事前打合せ・懇親会 2011年6月13日(月) 東海大学校友会館“諏訪の間”“有明の間”

訪中を前に、都内『東海大学校友会館』にて事前の打合せと参加者の懇親会を行いました。



【訪中団 1日目】結団式 2011年6月26日(日) 羽田空港特別待合室

羽田空港特別待合室で、出発前の結団式を行い、訪中団の成功に胸を膨らませます。



【訪中国 2～3日目】 中日原子力発電技術フォーラム開幕（技術発表 記者会見）
2011年6月27日(月)～28日(火) 北京西苑飯店

福島事故の状況に対する理解、交流と原子力発電安全と技術関連問題の検討のため、中国核能行業協会と日本技術者連盟、日本原子力産業協会、日本保全学会が共同開催した原子力発電技術フォーラムが開幕。中国核能行業協会 理事長 張華祝 氏を初め、日中代表団の主要人物と会い、双方が本会議の開催背景、準備状況および協力について意見交換した。



開会挨拶 中国核能行業協会 張華祝理事長

張華祝氏は歓迎の挨拶で、「日中両側の原子力界の専門家が集まり、福島事故の対応策と新技術という2つテーマをめぐって議論を行い、事件状況を説明し、交流し、経験教訓を分析しながら新技術発展を検討し大変有意義である。」と述べた。



【訪中国 5日目】 広東核電集团有限公司 2011年6月30日(木)

中国3大原子力発電事業者の一つである広東核電は、フランス電力(EDF)や仏アレバとシステム構築で合意しており、日本とも電力会社やプラントメーカーと共同で原子力発電所の事故処理などに関する工程管理情報などを共有出来るシステム開発を目指し、日本技術者連盟を窓口に掲携交渉を進めることで合意。



【訪中国 6日目】 大亜湾原子力発電所訪問 2011年7月1日(金)

深圳から車で1時間半程度の距離にある広東核電が所有する原子力発電所へ訪問。



【訪中国 7日目】2011年7月2日(土) 成田着

天候に恵まれ全行程滞りなく進行することができ、訪中国は成功裡に終了しました。